一番大事なものってなんだろう

佐溝貴史

［配役］
作家（A）
編集（B）

A と B が向かい合って座っている。間には机。A が 500 枚くらいの原稿用紙を出す

作家(A) できました！
編集(B) 長いよ。まあこれがあるべき姿だよね。
A　　そうですね。
B　　まあいいや、で、長いよ。
A　　え？
B　　なんで 30 枚っつったのに？こんなに書いてくんだよ。
A　　全部で 500 枚です。
B　　ありがとうね。はいティッシュ。
A　　全然わかってない！ 。
B　　どうしても短くできない？
A　　無理です。限界です。
B　　わかった(床に原稿を放り投げる)
A　　えー！！？？
B　　(適当に拾い上げ)はい、30 枚。
A　　話つながんないよ！
B　　（ページのつなぎ目を読みながら)「その時私は」・・・「死んだ」
A　　死なないですよ！　おかしいでしょ。
B　　そうか。まあじゃあどう削っていくか考えて行こう。
A　　はい。

プロジェクターに延々と文章が現れる。500 分の何ページとかでてる。

B　　これ、あなたの自伝なんだよね？
A　　ええ、そうです。Pop で波乱万丈な私の人生をシニカルかつナンセンスな視点で情緒豊かに書き上げました。
B　　なに劇団のチラシみたいなこと言ってんだ。うーん、出来事そのものを削っていくしかないか。
A　　そうですかね

B　　そうだなあ、、年末年始に起きたことだけにしよう。これでだいぶ削れるぞ。

プロジェクター、ぱっと減る。35 ページくらいになる。

A　　乱暴だな！　新年祝ってばっかでめっちゃお気楽な人みたいじゃないですか！　削るところなんかどこにもありません。
B　　じゃあ載せられないね。
A　　削りましょう。
B　　あと、じゃあ２割くらい削ればいいのかな。
A　　いや中身はもうむりですよ。
B　　じゃあ体裁か？　とりあえず、ですます調やめようか。
A　　わかった。
B　　おまえがじゃねーよ。
A　　すみません。こうですね。

プロジェクター、だ、である調になる。32 ページになる

B　　それで１割だろ、あとは、
A　　まだ削るんですかー？
B　　助詞はいらないんじゃないか。

プロジェクター、助詞が消える。30 ページになる

A　　何人だかわからなくなりますよ！（読んでみて）なんなんですかこれ！
B　　動詞ぬかすよりいいだろう。
A　　動詞ぬかしたら意味わかんなくなりますからね。。

プロジェクター、助詞を戻し動詞を抜かす。２９ページ

A　　動詞ぬかしちゃダメ！　なにしたのか凄い気になるじゃないですかこれ！

プロジェクター、動詞を戻す。30 ページ

B　　ほら、助詞のがいいだろう。
A　　まあ動詞よりはそうですけど。
B　　ついでに修飾語もぬかすか。

プロジェクター、修飾語を抜かす。27 ページ。

A　　味気な！（読んでみる）味気な！　てかもう削る必要ないじゃないですか！

B　　じゃあわかった。

A　　え。

B　　うん、句読点だけにしよう。

プロジェクター、句読点だけ（。、、。、、。、。・・・みたいに）3ページ

A　　えええええーーー！

暗転